

自衛官としての1ヶ月を終えて

このゴールデンウィーク期間中に神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山一海尉）を、真っ黒に日焼けした姿勢の良い若者が多く訪れた。

彼らはこの春、自衛官候補生として自衛隊に入隊し、厳しい1ヶ月の教育を無事に乗り越え、入隊後初めての連休で実家に帰省している合間を縫い、入隊時に携わった担当広報官を訪ねてくれたのである。

この1ヶ月間の出来事を明るく笑って話す彼らからは、入隊時の不安な表情もすっかりと消え、一人前の自衛官を目指す気合いのみなぎった雰囲気伝わってきた。特に全員が共通して話してくれたのは「同期との絆」であった。

濱本自衛官候補生は、「最初は他人同士で集団生活を送ることに不安があり、ストレスを感じたが、今では24時間苦楽を共に乗り越えた同期が居たから1ヶ月を乗り越えることができ、同期に感謝している。きつとこの教育のことは一生忘れない」と話し、櫻井自衛官候補生は、「この1ヶ月はとても早かった。やつと同期と仲良くなってきたのに、あと2ヶ月で前期教育を修了するのはとても嬉しい」と一様に同期の絆の強さを伝えてくれた。

厚木募集案内所は、「対象者が自衛隊に入隊するまで間、対象者の身上に沿った様々な支援をしてきたことが実を結んだ。入隊してからの厳しい教育期間も同期との絆があれば乗り越えられ、より成長できることを実感した。今後も自衛隊の魅力をしつかりと伝え、多くの若者を入隊に導くことができるよう募集業務に励んでいきたい」としている。



「不動の姿勢」で成長した姿を見せてくれた
櫻井自衛官候補生（左）と濱本自衛官候補生（右）
（厚木募集案内所）

高校生に自衛官の魅力をアピール

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻一陸尉）は、5月16日（水）、神奈川県立神奈川総合産業高等学校（相模原市南区）において「職業講話」を実施した。

これは、同校から3年生の進路意識の向上を目的に依頼されたもので、進学や就職を希望する生徒に対し、自衛官の魅力を伝えるべく、初めて実現したもので相模原地域事務所長の新妻一陸尉が講話を実施した。

本講話は、同校の視聴覚室において約1時間を要して、自衛隊の任務や編成、陸・海・空の職種を始め、訓練や生活に関する自衛隊の日常生活等もわかりやすく説明した。

説明終了後の質疑応答では、時間が過ぎるほど活発な質問があり、関心の高さを窺わせた。生徒からは「自衛隊は陸・海・空の中にも更にさまざまな職種があることを知り、仕事に対する理解や関心が深まった」「今まで知らなかった自衛隊の姿を知り、興味を持った」などの声が聞かれ、有意義な講話となった。相模原地域事務所は、「今後も、多くの若者に自衛隊の活動や任務について理解してもらえよう、積極的に募集広報活動に力を注いでいきたい」としている。



終了予定時刻が過ぎても、熱心な生徒からの質問に答える
相模原地域事務所長（新妻一陸尉）